

子どもたちと学ぶ自然と文化～いつなつとの自然観察会～

西垣由佳子, 藤木恭子, 西谷浩子 (但東野あそびくらぶいつなつと)

はじめに

私たちは兵庫県豊岡市但東町で活動する任意団体「但東 野あそびくらぶ いつなつと」です。二か月に一度、地元の親子の皆さんを対象に自然観察会や体験活動をおこなっています。一見、穏やかな農村風景が広がる但東町ですが、課題もたくさんあります。過疎化による人口減少や小学校の統廃合、シカの増加による森林被害や農業被害、外来種問題。高齢化がすすみ、自然に寄り添ってきた文化やくらしは、今、静かに消えつつあります。但東町の自然の中で遊んだ思い出が、子どもたちの原風景となるように、地域に残る自然や文化と一緒に学び、体験しています。2021年春から活動を開始し、丸三年となりました。



1. あそぶ

自然観察会に参加したことのない親子の皆さんの心のハードルを下げ、参加者の間口を広げられるか。チラシを見て「ちょっと行ってみようかな」と思ってもらえるプログラムや企画をもとに、自然の中で楽しくあそぶことを一番に考えています。小学生時代に参加してくれていた子どもたちも中学生となり、今ではサポートスタッフとして活躍しています。まずは、楽しそう！と感じてもらい、自然に慣れる、自然の中であそぶことが心地よいと感じてもらえるような、自然観察会や体験活動を目指しています。



初参加の親子。クラフト作業は親子で楽しめる



おもいっきり遊べる川の観察会は大人気

2. 聞く、知る、体験する

集落のお年寄りから昔のくらしの話を聞いたり、生き物の呼び名や使い方を教えてもらうことは、地域の自然史を知ることにつながります。時には、聞いた話を子どもたちに紹介したり、実際に体験したりもしています。



子どもたちにつたえる



小坂集落に暮らす90歳のよしゑさん

3. 食べる

いつなつと自然観察会での餅つきは定番です。石うすで大豆を挽いて、きな粉にしたり、よもぎ餅も作ります。地元の漁師さんが捕ったアユを食べたり、新米をかまどで炊いたり。調理に使うのは町内で採れた野菜やシカ肉です。



つきたてのよもぎ餅をほおぼる



「フユイチゴ、知ってるで」と女の子



火の扱いも少しずつ上手に



アユっておいしいけど苦いところもある！

4. 『小さな自然再生』はじめました

自然を利用するだけでなく、もっと積極的に生きものを増やしたい！5年、10年先も子どもたちと楽しい観察ができるように『小さな自然再生』を始めました。川の自然観察会の中では、子どもたちと川の中の石を動かし、バープ工と呼ばれる水制を作ります。落ち葉が溜まる場所は水生昆虫や魚の隠れ場所になり、石積みの際間は泳ぎの苦手な稚魚たちのゆりかごとなります。山では希少植物の残るエリアにシカ防護柵を設置しました。どちらもメンテナンスが欠かせませんが、今後どうなっていくのか楽しみです。地元の漁協や地権者の協力を得ながら、地域の皆さんにも関心を持っていただくことも大切にしています。



環境学習の中でもバープ工づくり



シカ網の設置



10月には小さな自然再生の現地研修会を実施、三橋弘宗先生に講演、現場指導をしていただいた



5. いろいろな協団体とのかかわり

多くの方々の協力を得ながら自然観察会をおこなっています。集落の区長さん達、但馬の自然を長年見てきた他団体のリーダー、何でも気軽に質問できる博物館の先生方や豊岡市立図書館但東分館の司書さん、いつなつのスタッフに生き物の専門家はいませんが、日々、自然のことを勉強しながら楽しく活動しています。



6月、ひとはくセミナーでは中濱直之先生が但東町へ



集落の区長さん



テーマに沿った本を観察会の場で借りることができる



中学生スタッフの皆さん

いつなっとなが大切にしたいこと

それは生物文化多様性と、但東町をもっと好きになってもらうことです。子どもたちが植物や昆虫の名前を忘れても、その時に感じた「楽しい」「うれしい」「おいしい」「きれい」「きもちいい」という気持ちは、きっと心の中に残っていくことでしょう。自然に興味、関心のある子どもたちが一人でも増えてくれたら、こんなにうれしいことはありません。いつなっとながに参加した子どもたちが、自然や文化、環境を大切に思う心を育み、次の世代に繋げていってくださることを願っています。

